

# 東京芸術劇場 東京のはら表現部

## 2019～2021 年度の活動

### 2019 年度

第1期生のメンバーは、高校生から20代を中心とするダンサー13名とファシリテーション実習生9名、合計22名。ダンサーにもファシリテーション実習生にも、さまざまな障害のある人とない人が混在。ダンスや指導の経験も、さまざまでした。

4月にメンバーを公募し、6月に活動を開始。月に一度、日曜日午後に、東京芸術劇場または全国障害者福祉センター戸山サンライズに集まり、ワークショップを開催しました。多様ななかに一体感の満ちた身体表現をみなで創造し、そのプロセスを一緒に楽しみました。

9回目のワークショップとなる2020年2月2日には、東京芸術劇場で、100名以上の観客を迎えて、『オープンのはら season 1』を開催。映像で活動の様子を紹介し、一人一人のメンバーが思いや感想を語った後、ロワー広場でショーケースを行いました。「てあわせ」や新聞紙を使ったワークショップのデモンストレーションに続き、作品「まど」と「そら」を披露。最後はお客様も誘って「てあわせ」で締めくくりました。地下1階にあり、地下通路から東京芸術劇場への入り口に位置するロワー広場は、5階まで吹き抜けの構造です。高い天井のもと、風や光を感じて気持ち良く踊るダンサーたちを、1階や2階からもたくさんのお客様が鑑賞してくださいました。



『オープンのはら season 1』



また、都内の公立小学校で、全校生徒約450名を対象とするアウトリーチ・ワークショップを、ファシリテーション実習生を中心に企画し実施しました。

### 2020 年度

ダンサー12名とファシリテータ4名のメンバーで、8月から3月まで9回にわたって、オンラインでワークショップを実施しました。リモートでも仲間とつながって、心を通じ合わせて、一緒に「のはら」を楽しむことのできる身体表現を全員で模索しました。その成果として即興作品を創り、最終回の公開ワークショップ「オープンのはら season 2～そらにのはらをつくろう」にて発表をしました。

また、表現ワークショップ『『のはら』であそぶ』に加えて、学びの会『『のはら』でまなぶ』を3回シリーズで公開開催し、映像の振り返りとディスカッションを行いました。



オンラインワークショップ



「『のはら』でまなぶ」

## 2021 年度

4月から11月までは前年度に引き続きオンラインでワークショップを行いました。新型コロナウイルスの感染拡大が少し落ち着いた12月より、状況に応じて3回、対面でワークショップを実施しました。



オンラインワークショップ



12月の対面ワークショップ

また、10月より、劇場に来ることが難しい人たちにも「のはら」を届けていこうと、都内の社会福祉施設などでのアウトリーチ・ワークショップを開始しました。障害者支援施設や中高校生の放課後等デイサービスセンターにファシリテータが出向いて、1時間から1時間半程度、施設利用者の皆さんと一緒に身体表現を楽しみます。こうした活動を通じてファシリテータの実践の場を広げ、人材育成にもつなげていきます。



アウトリーチ・ワークショップ

## オープンのはら Season3

10回のワークショップを経て、2022年3月26日土曜日に、1年間の活動を振り返る「オープンのはら Season3」をオンラインで開催しました。メンバーやご家族のほか外部の方々にも参加いただいて、今年度創作した作品「Distance 2021」の発表や、都内福祉施設で実施したアウトリーチの報告を行いました。



「Distance 2021」 稽古



「オープンのはら Season3」

東京のはら表現部

【お問い合わせ】

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1 東京芸術劇場 事業企画課 事業調整係  
社会共生担当「東京のはら表現部」担当  
03-5391-2116

[https://www.geigeki.jp/performance/tokyonohara\\_2022/](https://www.geigeki.jp/performance/tokyonohara_2022/)

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場  
協力：NPO 法人みんなのダンスフィールド